



学校だより

No. 8 さいたま市立神田小学校

令和7年11月28日発行 Tel (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

本質を問う

校長 中村 誠



代表委員会が中心となって朝のあいさつ運動を行っています。

冬の冷たい風が吹き始め、校舎や校庭にもやわらかな冬の光が差し込む季節となりました。そんな中でも、子どもたちの笑顔と元気な声が学校を温かく包んでいます。

さて、2学期も残り僅かとなりました。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。また、先月より実施した

学校評価では、多くの方にご回答いただき、重ねて御礼申し上げます。いただいたご意見は集計・分析のうえ、次年度に向けた改善策を検討し、明年1月に結果をお知らせする予定です。

先日、地域の代表の方々と「これからの学校について考える」ことを目的に、第2回学校運営協議会を開催しました。今回は「学校の役割とは？」というテーマで話し合いをしました。実はその前に、6年生にも同じテーマで話し合ってもらい、意見を言語化して掲示しました。その内容を参考にしながら、協議会でも様々な意見が出て活発な話し合いを通して言語化することができました。6年生からは「個性を伸ばして成長し、将来に向けて一步を踏み出す場所」「長所を伸ばす場所」などの言葉が、協議会の委員からは「生きる力をつける場所」などの言葉が出されました。どちらも、人としての成長を大切にする視点が共通していました。

このように、本質的な問いについて話し合い、言葉にしていく対話を「本質観取」といいます。これは熊本大学の苦野一徳先生が提唱する方法です。先月の学校だよりでも述べましたが、本質的な問いには、正解が一つではなく、人によって多様な考え方があります。そうした本質を問うテーマについて深く考え、言葉にすることで、みんなが納得できる「納得解」を見つけることができるのが本質観取の対話です。これからの時代に必要なのは、唯一の正解を求めることではなく、対話を通じて納得できる答えを見出す力です。未来を生きる子どもたちには、「今、みんなで納得できる答え」を見つけられる力を育ててほしいと願っています。

来年も、神田小のすべての子どもたちの可能性を信じ、学校・家庭・地域が一体となって温かな教育活動を進めてまいります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。